

学校法人 KBC 学園 専修学校 国際電子ビジネス専門学校

## 卒業までに3割以上がORACLE MASTER Goldを取得 県内屈指の高い就職実績を誇る



沖縄県最大の専門学校グループである学校法人 KBC 学園の専修学校 国際電子ビジネス専門学校(以下、国際電子ビジネス専門学校)では、IT分野を中心にビジネスの世界で活躍できる人材の育成に貢献してきた。

とくにハイレベルな技術教育を実施する情報スペシャリスト科では、以前からオラクル認定資格取得のためのカリキュラムを教育の柱の1つに位置づけている。卒業までに3人に1人がORACLE MASTER Gold を取得するなど多くの資格取得者を輩出し、県内屈指の高い就職率を誇っている。

### じっくり勉強に取り組むための 3年制、4年制カリキュラム

国際電子ビジネス専門学校の情報スペシャリスト科は3年制と4年制だ。その狙いについて、指導に当たる同校教務部1課情報スペシャリスト科の福士とよみ氏は、「当校では、就職活動は卒業の年の春から始まるため、2年制では1年のときの活動しか評価されません。それでは学べることが少ない。3年生であれば2年間、4年生であれば3年間、じっくりと勉強に取り組むため、3年制と4年制という編成になっています」と語る。

入学してくる学生の勉強に対する意欲も高い。なかには入学前に、情報処理技術者試験の基本情報技術者や

ITパスポートに合格しているような学生もいる。「一方でまったくITの知識がない学生も多く、入学時のレベルはまちまちですから、授業は予備知識がなくてもできるようにしています。大切なのは“ここで何を学ぶか”です。真面目にやれば、かならずスキルアップできます」(福士氏)。

入学後の目標は高い。まず入学すると、秋の情報処理技術者試験に向けての勉強が始まる。半年間はみっちりITの基礎知識を身につけるのである。それが終わると、ORACLE MASTER や Java 認定資格などのITベンダーの資格試験への挑戦が始まる。ORACLE MASTERでは、2年でBronze、3年でSilver、4年でGoldを目指すことになる。

### 試験会場の認定校にもなって 資格取得をしっかりサポート

同校では、資格取得には3つのメリットがあると考えている。1つ目は資格を取得することで、その分野について体系的に学べること。「資格取得を目的にすることで体系的に学べ、基礎知識が部分的に抜け落ちるようなこともありません」(福士氏)。2つ目は、資格取得のプロセスだ。「自ら目標を立て、計画して、実行し、達成するというプロセスを体験することで、自信がつく」と福士氏は指摘する。

3つ目は、就職活動での武器になることだ。卒業までにORACLE MASTER Goldの資格取得者が約3割に達する情報スペシャリスト科は、就職率が高いのは当然だろう。「情報スペシャリスト科の就職率は100%です。さらに、複数の企業から内定をいただくのも普通です」(福士氏)。

情報スペシャリスト科を卒業した学生の進路はさまざまだ。プログラマーやSEはもちろん、ネットワーク・エンジニアやセキュリティ・エンジニアを目指す学生も多い。最近では運用管理系への就職希望も増えているという。福士氏は、「資格を持っているから即戦力になるということではないかもしれませんが、希望の部署に配属してもらえる可能性が高まるはずですよ」と、学生側のメリットを話す。

同校では、オラクルの認定資格を初めとするさまざまなIT関連資格の試験会場に認定されており、校内で試験が受けられることも、学生にとっては大きなアドバンテージだ。「2年前に試験会場を開設したのですが、1日で全員が受験できるようになり、資格が身近なものになりました。会場予約の手間が省け、本人の勉強の進み具合と試験監督者のスケジュールが合えばいつでも受験できるのも、資格取得の促進につながっています」(福士氏)。



学校法人 KBC 学園  
専修学校 国際電子ビジネス専門学校  
教務部1課 情報スペシャリスト科

福士 とよみ 氏

## 現場で求められている資格だから学生に対しても説得力がある

ベンダー資格のなかでも注力しているのが、ORACLE MASTERの資格取得だが、その理由の1つとして、福士氏は「資格体系が安定している」点を挙げる。それによって企業からの認知度や信頼度も上がるため、就職活動の際には武器になる。

また、現場のエンジニアが取りたい資格として、ORACLE MASTERが常に上位にあることも、学生にとっては大きな動機づけになる。ITの世界ではデータベースはどの職種でも必須とされる知識であり、現場でも求められて

いる資格であることから迷うことなく“取りなさい”と指導できるという。

「4年制ではORACLE MASTER Sil verの取得率を100%にすることを目標に取り組んできて、ほぼ実現できています。これから資格がOracle Database 12c対応のものに移行しても、この水準を維持できるようにすることが今後の目標です。また、Java認定資格についても、SE7に対応していきたいと考えています」と福士氏は話す。同校の高い教育レベルと高い就職率を維持し続けるために、資格取得に向けた取り組みのさらなる強化が予定されているようだ。

### PROFILE

#### 学校法人 KBC 学園 専修学校 国際電子ビジネス専門学校

創立から30年の歴史を有する、沖縄県最大の専門学校グループである学校法人KBC学園の中核校。オフィスキャリア科、情報ビジネス科といったオフィス系の学科から、情報スペシャリスト科、情報ライセンス科、組込みシステム科などのIT系の学科、ITエンジニア科ゲームプログラムコースやデジタルデザイン科など、2年制から4年制の学科が設置され、約400人の学生が学ぶ。就職内定率は96.5%（2013年3月卒業生就職希望者184人中174人内定）と高く、沖縄県ではトップクラス。

## 実践的な能力のアピールが内定獲得につながった



### 【写真左】

国際電子ビジネス専門学校  
情報スペシャリスト科4年

**大城 美奈**さん

### 【写真右】

国際電子ビジネス専門学校  
情報スペシャリスト科4年

**渡久山 拓也**さん

2人ともORACLE MASTER Goldに合格した優秀な学生だが、ITへのかかわり方はまったく異なる。渡久山さんは、入学前から独学でC言語を学んでプログラミングが好きになり、高校2年生の時には国際電子ビジネス専門学校への進学を決めていたという。「理由は幅広い資格がとれることと、大学より授業が詰まっっていて、しっかり勉強できると考えたからです」と話す。

一方の大城さんは2年制の学科に入学して、途中から学科変更している。「入学までITにはそれほど関心がなかったのですが、3年制や4年制の先輩たちを見ていて、就職するまでにより実践的なスキルを身につけたい、と考えて学科変更しました。先生から“ITに向いているよ”と期待されて、もっと勉強するようになりました」（大城さん）。

渡久山さんの就職先は、モバイルアプリケーションやエンターテインメントを中心に事業を展開する、東京のソフトウェア開発会社。就職後は、プログラミング一色になりデータベースに触れる機会は少なくなるが、それだけにORACLE MASTER Gold取得のための勉強は「データベースの運用についての知見を広げておく絶好の機会になった」という。

大城さんが就職するのは、県内のソフトウェア開発会社。「ORACLE MASTER Goldに合格したことで周囲は褒めてくれます。自信にはなりませんが、資格に見合った知識や能力が求められるので、期待が高くなりすぎるのは少し怖いですね」と笑う。実際に、早くも内定先の企業からはさらに上の資格へのチャレンジを期待されているという。これから社会に出てIT業界を担っていく2人には、卒業前からより高いレベルの技術者へと成長する期待がかかっている。

日本オラクル株式会社

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-3-13 赤坂センタービルディング12F  
oracle.com/jp

オラクルユニバーシティ  
お問い合わせ窓口

ORACLE  
UNIVERSITY

TEL 0120-155-092

URL <http://www.oracle.com/jp/education/>